



Creative Application A17

# メディア実装の基礎2

## 主客の交差と相互作用 「メッセージング」

2025年度

渡邊 賢悟 (渡辺電気株式会社)

# 本日のテーマ

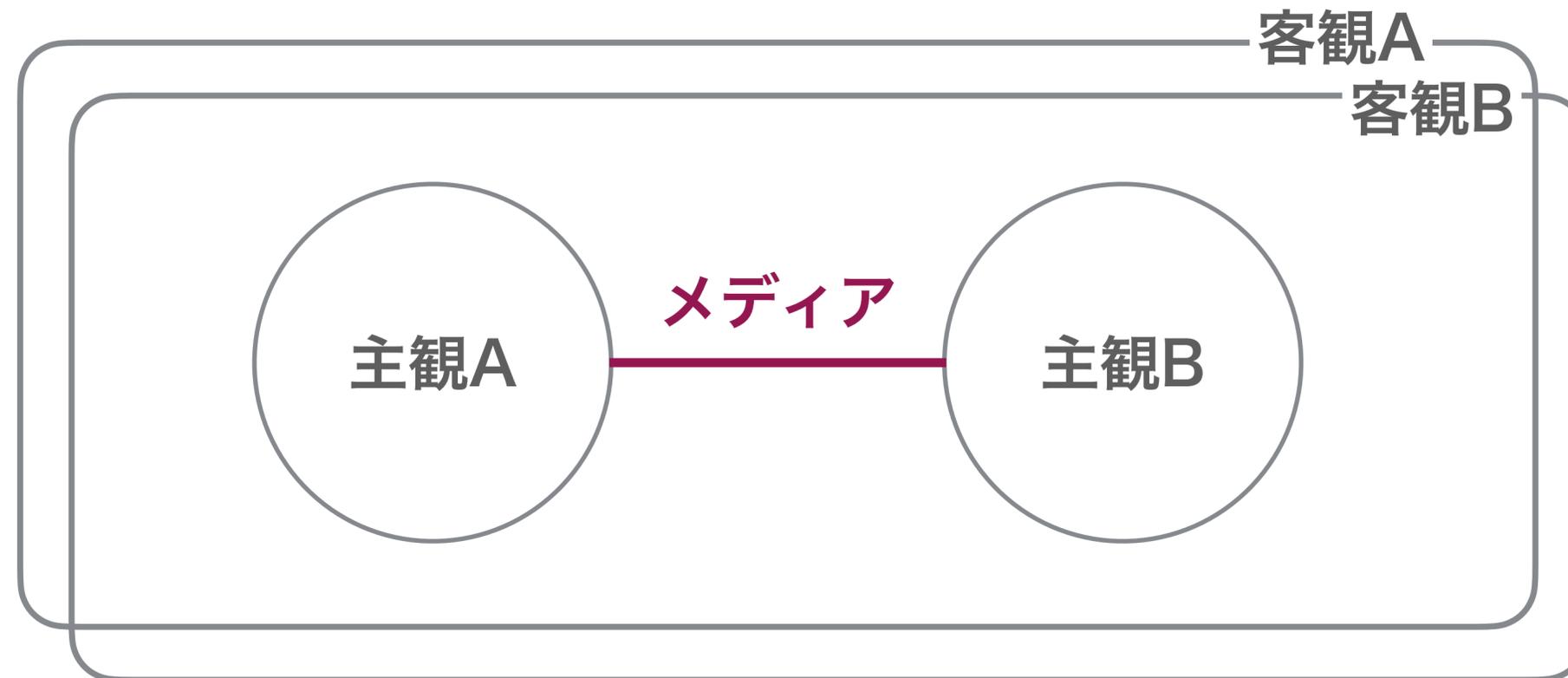
- ▶ **自分と他者の思考の行き交いと相乗効果**

# 主観とメディア化

- ▶ 主客の乖離 [A03]
  - ▶ 個人の思考が重要になる一方, 共有する難度が上がった
- ▶ **メディア化** [A03]
  - ▶ ものごとを**思考を伝えうる形**に変えて思考の共有を促進する
- ▶ メディア化を促進 → 個人同士をつなぎ社会を形成していく

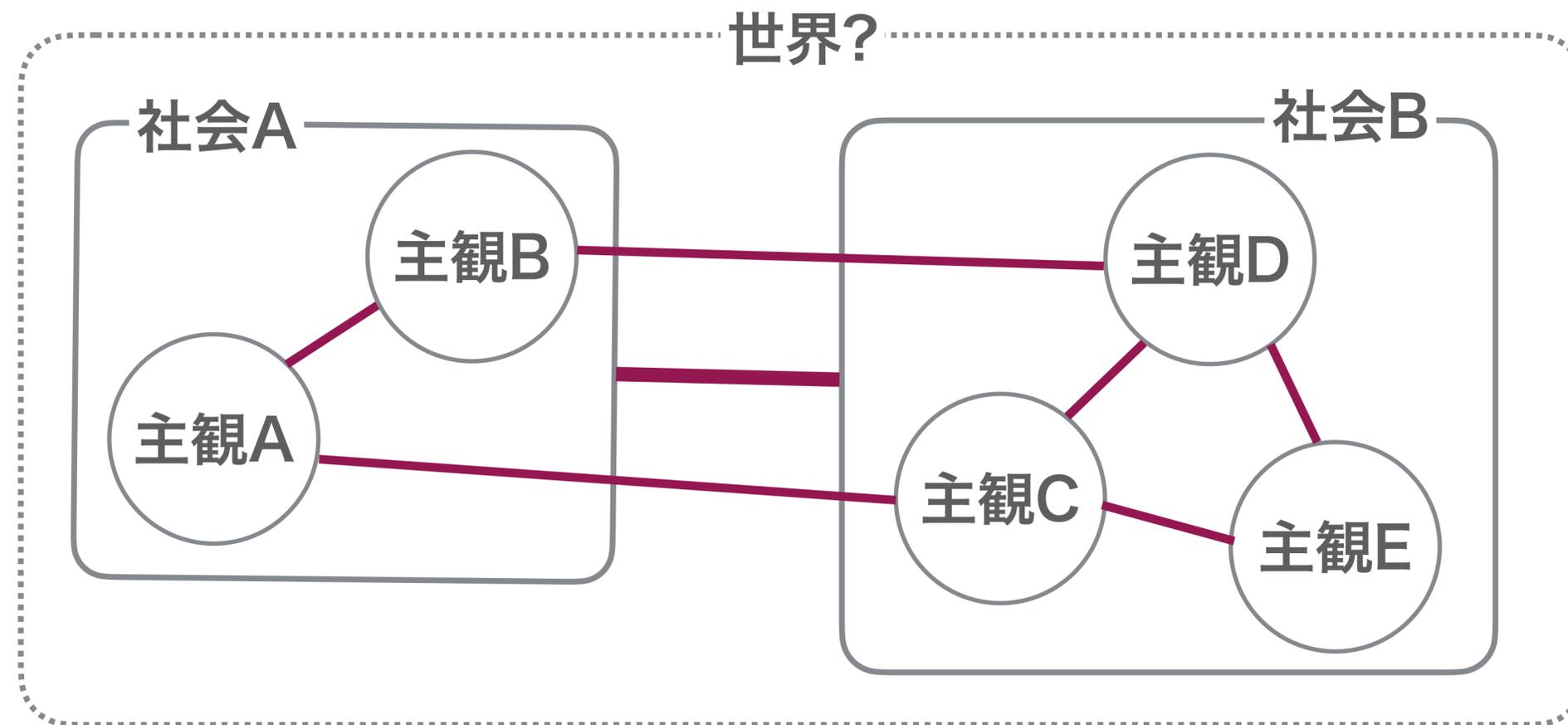
# [A03+] 主観と客観

- ▶ **主観** - 個人のものもの見方・個人の思考領域
- ▶ **客観** - 主観以外の領域 (他者の主観含む)
- ▶ 個の強化 → 主客の乖離・客観領域のズレ

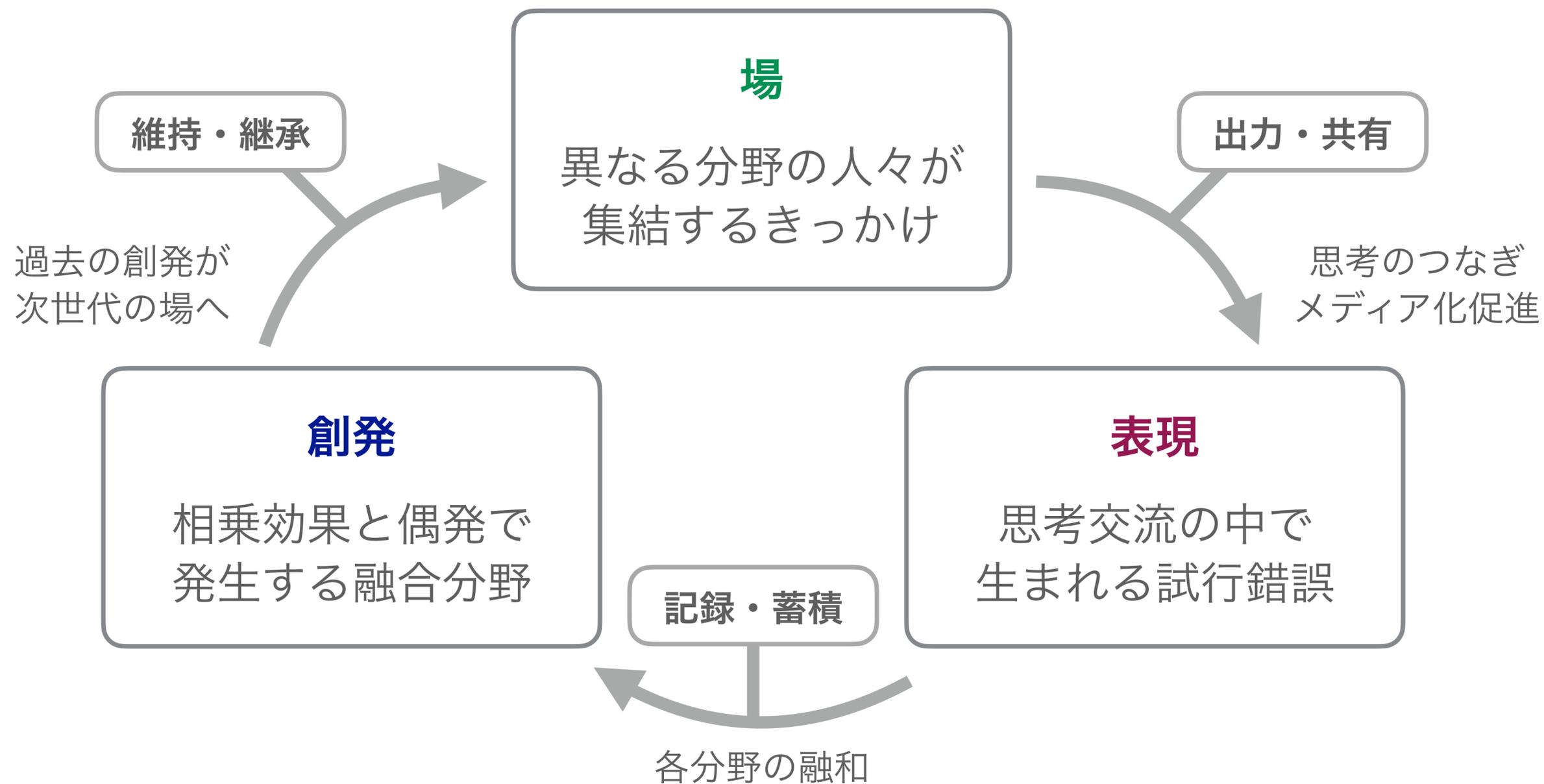


# [A03+] 個と社会と世界

- ▶ 個・社会・世界, それぞれの距離が開いた
- ▶ 個のアウトプットをメディア化し, 社会へつなぐことを考えたい

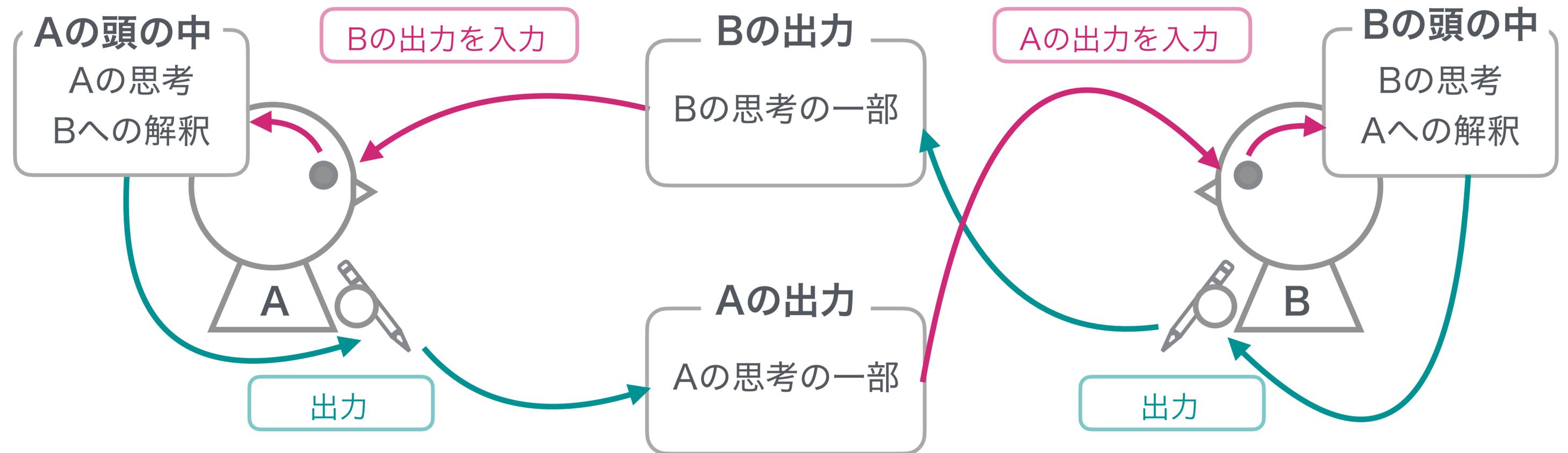


# [A04+] メディア・サイクル



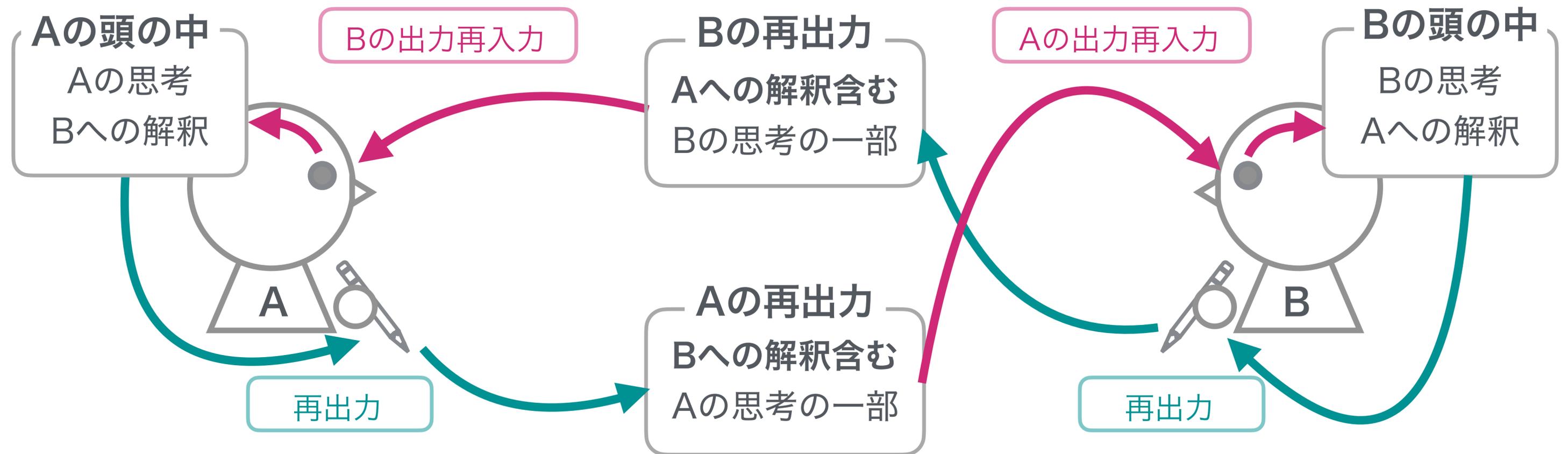
# メッセージング1 - 交流の形成

- ▶ 主観A-主観B間で**相手に伝える出力(ノート)**を受け取り合う：**メッセージング**
- ▶ 出力を受けとり相手への解釈が思考に加わる → 自分の思考に織り込まれる



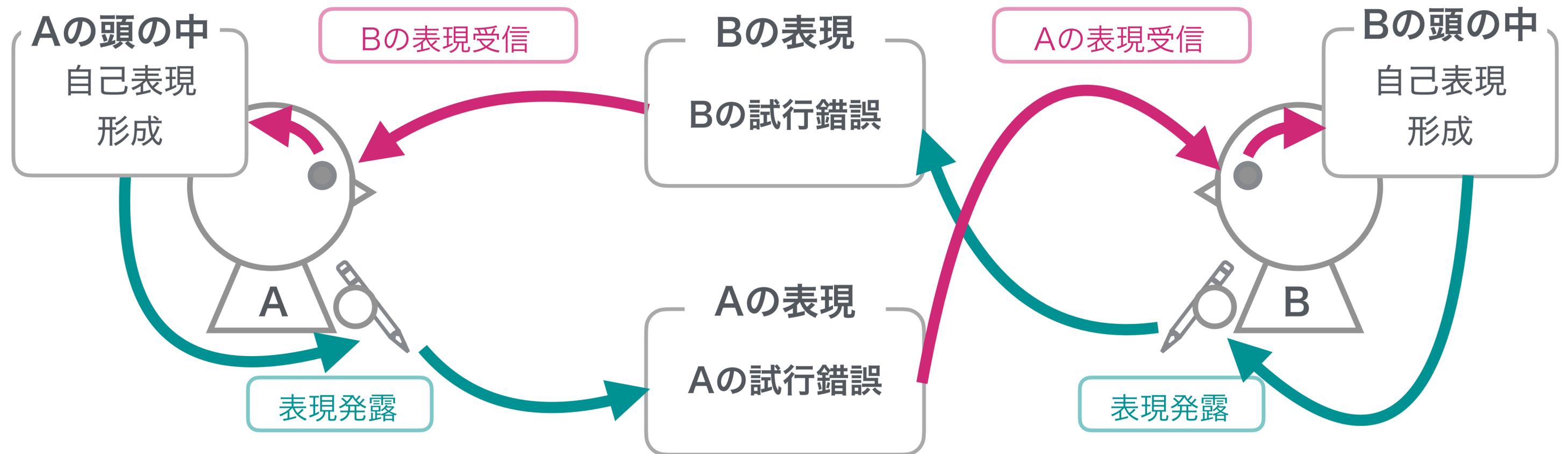
# メッセージング2 - ラリーの形成

- ▶ メッセージングの課題：伝わりやすくする工夫, 解釈のずれの調整
- ▶ 互いの解釈を交えた入出力のラリーができることを目指す

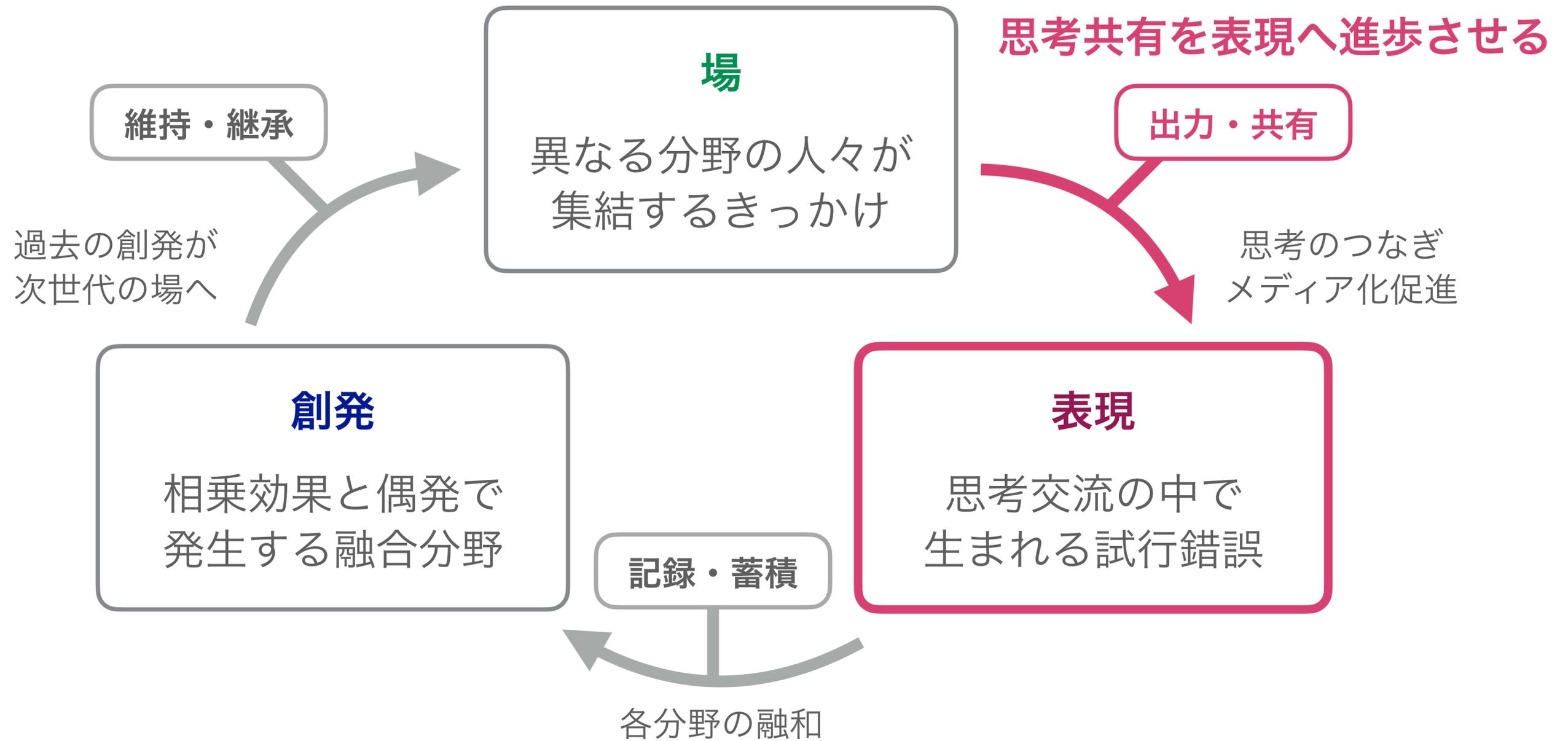


# メッセージング3 - 表現の試行錯誤へ

- ▶ ラリーで思考が更新され伝わりやすさが増す → **メディア化の促進**
- ▶ **理解が進み自分の思考も磨かれる** → **表現の試行錯誤へ(メディア表現)**



# メッセージングとサイクル



# まとめ

- ▶ 個人の思考が発展する一方で主客の分離が強くなった
  - ▶ 個人間の交流の必要性が高まり, メディアが要点となってくる
- ▶ **メッセージング**
  - ▶ 主観同士をつなぐ相互の入出力の工夫とラリー
  - ▶ つながりをなめらかにする → 試行錯誤の発生・表現の発露
  - ▶ 伝わりやすい表現のメディア化を促進
  - ▶ 他者を通じた思考の更新と研磨
- ▶ メディア実装においては…
  - ▶ 伝わりやすい表現を磨くことで, 作るものに付与するメディア性能が高まる

# 本日の談義・考察一助

- a. メッセージングの確立の障壁となる課題点と理由を挙げて欲しい
- b. 出力と解釈は必ずズレる. ズレを容認する工夫を考えたい
- c. 自分向けのノート, メッセージングのノートの違いは何か
- d. **メッセージングはメディア実装にどう寄与するするだろうか**

# 次回予定

**メディア実装の基礎3**

**交流で加速する表現「コミュニティ」**

# 参考文献

1. 藤田一照, 「アップデートする仏教」, 幻冬舎, 2013
2. 藤田一照, 永井均, 山下良道, 「仏教3.0を哲学する」, 春秋社, 2016
3. 飲茶, 「史上最強の哲学入門」, 河出文庫, 2015
4. 飲茶, 「史上最強の哲学入門 東洋の哲人たち」, 河出文庫, 2016
5. 森田真生, 「数学する身体」, 新潮社, 2018
6. 西田幾多郎, 「善の研究」, 青空文庫, 1979
7. 藤田正勝, 「日本哲学史」, 昭和堂, 2018井筒 俊彦, 「イスラーム文化 - その根底にあるもの」, 岩波書店, 1991
8. 竹田青嗣, 「現象学入門」, NHK出版, 1989
9. 岡本 裕一郎, 「いま世界の哲学者が考えていること」, ダイヤモンド社, 2016
10. 西垣 通, 「AI原論 神の支配と人間の自由」, 講談社選書メチエ, 2018
11. マルクス・ガブリエル著, 清水 一浩訳, 「なぜ世界は存在しないのか」, 講談社選書メチエ, 2018
12. アレックス・オスターワルダー他著, 小山龍介訳, 「ビジネスモデル・ジェネレーション ビジネスモデル設計書」, 翔泳社, 2012
13. ティム・クラーク他著, 神田昌典訳, 「ビジネスモデルYOU」, 翔泳社, 2012
14. ティム・クラーク、ブルース・ヘイゼン他著, 今津美樹訳, 「ビジネスモデル for Teams」, 翔泳社, 2012
15. 沼上幹, 「組織デザイン」, 日本経済新聞出版, 2004